

携帯基地局、電磁波とは……

専門家による公開討論会のお知らせ



大和 2 丁目の住宅地の目の前に KDDI (au) の携帯電話基地局ができて 10 カ月がたちました。稼働に不安を持つ住民と会社の話し合いにより、まだ電波は発射されていません。

携帯電話基地局、そこから出る電磁波、その人体影響とはどのようなものなのでしょうか。

ほんとうは設置前にあるべきだった住民のための説明討論会を、設置企業、専門科学者をお招きして開催し、皆さんとごいっしょに考えたいと思います。

どうかお誘い合わせの上ご参加ください。

日時： 7 月 5 日（日）午後 2 時～5 時（参加費無料）

場所： 高槻大和ネオポリス自治会 集会所

論者： 荻野晃也氏（理学博士・電磁波環境研究所所長）

KDDI 株式会社 代表者（参加要請中）

主催： 携帯基地局設置に不安を持つ大和住民のグループ

（連絡先：大和 2 丁目 25 班 ~~03-5821-1111~~、~~03-5821-1111~~）

講師 荻野晃也（おぎの こうや）博士 プロフィール

1940年富山市生まれ。1962年京都大学理学部物理学科卒。1964年京都大学理学研究科修士課程・原子核物理学専攻修了後に京都大学工学部原子核工学教室助手を経て講師（常勤）。理学博士。2003年3月末で京大を定年退職し、「電磁波環境研究所」を主宰。

原子核物理学、原子核工学、放射線計測学、電磁波工学などを専門とする一方で、原子力・核問題・人権・環境問題・電磁波問題などにも物理学者としてかかわっている。また日本で最初の原発認可に反対する行政訴訟である「伊方原発訴訟」では、原告（住民）側の特別補佐人となった。住民・市民側に立つ科学者であることを心がけている。1979年に米国スリーマイル島原発事故の現地と米国・原子力規制委員会（NRC）図書館へ調査に行った際に、「配電線近くで小児白血病が増加している」との世界最初のワルトハイマー論文を知ったことから、電磁波問題にも関心を持ち続け、「送電線」「携帯電話」「リニア新幹線」などの問題に取り組んでいる。



主な著書

【電磁波問題・関係】

「ガンと電磁波」1995（技術と人間）

「あなたを脅かす電磁波」1995,2001（法政出版）

「高圧線と電磁波公害」1997,1999（共著：緑風出版）

「携帯電話は安全か」1998：ブックレット（日本消費者連盟）

「死の電流」ブローダー著、1999（監修：緑風出版）

「ケイタイ天国・電磁波地獄」1998,2000：ブックレット（共著、週刊金曜日）

「電力線電磁場被曝」ブローダー著、2001（監修：緑風出版）

「携帯電話：その電磁波は安全か」カーロ他著、2001（監修：集英社）

「電磁波汚染と健康」シャリタ著、2004（監修：緑風出版）

「電磁波の健康影響」チェリー著、2005（監修：中継塔問題を考える九州ネットワーク）

「健康を脅かす電磁波」2007（緑風出版）

「危ない携帯電話」2002,2007 増補版（緑風出版）

「予防原則・リスク論に関する研究」2013(共著：本の泉社)

「危ないリニア新幹線」2013(緑風出版)